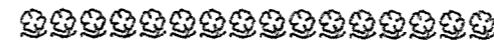


# 新鶴見通信

江ヶ崎町福祉だより 第44号



発行日 平成30年3月31日  
発行所 江ヶ崎地区社会福祉協議会  
発行者 黒川 修三  
045-583-5225  
〒230-0002  
横浜市新鶴見区江ヶ崎町21-4



## 結いしんぶん



### ★新鶴見小コミュニティハウス★

いつもの年より寒かった冬もようやく終わりを告げ、新しい季節が始まりました。新鶴見小学校は春の花々が咲きほこり、ケヤキの新しい葉がぐん！と芽吹いています。日々暖かさが増し「何かわくわくする！」と心躍る、そんな気持ちが湧き出します。新しいことを始めるに最適な季節。コミュニティハウスでは、様々な講座や催しを企画しています。待望の春！新しいことにチャレンジ？お友だちをつくる？情報交換する？充実した読書生活を送る？どうぞコミュニティハウス発行のたより「そうしゃじょう」をご覧ください。楽しい情報満載です。皆様のご来館をお待ちしています。

新鶴見小学校コミュニティハウス館長 伊藤 崇子

### ★新鶴見ホーム★

桜の咲く季節になってきましたが、まだまだ気候が安定しない日が続き、体調を崩しやすい季節でもあります。風邪予防の基本はうがい、手洗いと言われています。当ホームでも、職員は出勤時、退勤時のうがい、手洗い、通勤時のマスク着用等により風邪予防に取り組んでいます。

また「口から食べる」を目指し、お客様の口腔ケアに力を注いでいます。口腔ケアを行うことで口腔内の清潔だけでなく、病気の予防や食べる喜び等の生活全般の活性化に繋がると言われています。介護職員、看護職員、栄養士等の連携での支援とともに歯科の先生のご協力も得ながら、口腔内のケア方法や食事時の姿勢等を見直すことで、いつまでも「口から食べること」を目指して取り組んでいます。

今年度も地域の皆様に楽しんで頂けるようなお祭り等を予定しています。ぜひ、お越しいただければと思います。

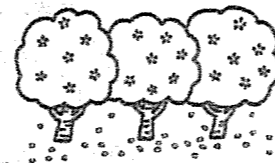
新鶴見ホーム本館フロア長 向井 護

### ★新鶴見小学校★

菜種梅雨の肌寒い陽気でしたが、3月20日(火)卒業154名が晴れやかな表情で本校を巣立って行きました。一年生で入学してきた頃はまだ背丈も小さくあどけなさが残っていた子どもたちが、小学校の6年間で随分と心も体もたくましく成長してくれました。卒業証書を一人ひとりに授与した時の表情はとても晴れやかで希望に満ちていました。今年も校長室で給食を食べながら、子どもたちが語る夢に耳を傾けました。私たちが子どもの頃と比べると、随分と幅広く夢が語られました。中にはしっかりと将来を見据えた計画を話してくれる子もいました。ぜひとも「夢」の実現のために一步一步確かな歩みを重ねてほしいと思います。「夢ふくらむ」新鶴見っ子のこれからは前途洋々です。このように子どもたちがしっかりと自分の目標を見据えて成長できたのも、これまで子どもたちの成長のために、惜しげなく支援して下さった地域の皆様のおかげです。改めて感謝を申し上げます。ありがとうございました。これからも「まち」の子どもたちとして温かく見守っていただけますようお願い申し上げます。

新鶴見小学校長 濱田 哲也

### ★新鶴見公園★



草木も、新春を待ち遠しく芽をきき出し始めました。今年も、公園愛護会は月二回、公園の草刈り・清掃を行います。お気持ちの有る方、お手伝いよろしくお願ひします。

第二・第四日曜日 午前7時30分より約2時間  
新鶴見公園愛護会 菊池 武徳

あとがき  
平成29年度広報紙「結しんぶん」をお届けします。大変遅くなり、楽しみにして下さった方々には申し訳ありませんでした。30年度は通常通り発行したいと思っております。どうぞよろしくご支援、ご協力をお願い申し上げます。

(た)

## 江ヶ崎の「災害時要援護者」支援の取り組みについて 一町の防災名簿への登録のおすすめ

江ヶ崎町内会 会長 黒川 治宣

日本列島は地震列島です。いつ地震が発生しても不思議ではありません。

そしてもしその大震災が発生した場合、要援護者の方にとって誰が最も頼りになるのでしょうか。

支援にはスピードを要します。消防や警察はすぐには動けません。また被災地外からの救援は時間が必要です。更には遠くにお住いの身内の方でもありません。

**やはりご近所にお住いの地域の方々です。向こう三軒両隣の方々です。**

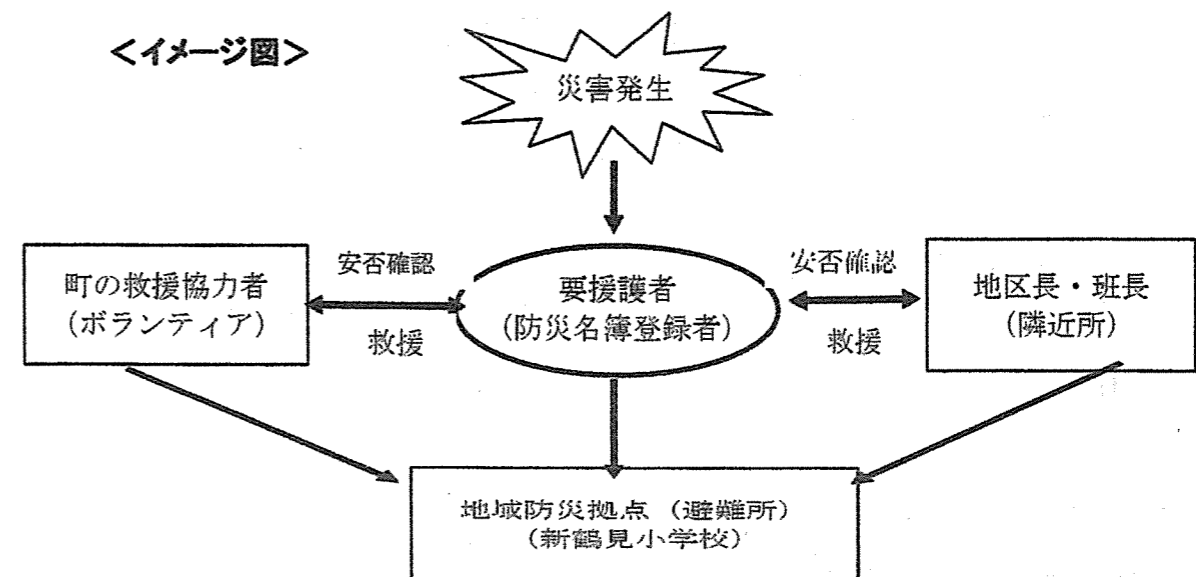
これ迄に各地で発生した大震災での被災者の約80%は近隣住民によって救助されていると言われております。

そこで江ヶ崎では万が一の災害が発生した場合、「自力で避難出来ない或いは困難な方」の情報を予め把握し、地域の力で安否確認や避難支援を組織的に行うために、町の「防災名簿」への登録をおすすめしております。

登録は任意ですが現在200名を超える方が登録をされております。

そしてその防災名簿について、万が一の場合誰が「助けて下さい。手を貸して下さい。」と登録されているのかが、ご近所の方に分からなければ安否確認或いは支援のしようがありません。そのため防災名簿を有効活用出来るよう平成24年3月に「個人情報取扱規定」を制定し、必要な範囲に登録者名をお知らせし、そして下図の通り地域ぐるみの「支えあい・助けあい」の体制を整えております

<イメージ図>



※ 防災名簿登録は5月に回覧にてお知らせ致します。

## 江ヶ崎八幡神社の由緒について

江ヶ崎八幡神社世話人会  
総代 黒川 治宣

ご承知の通り当町は近年世帯数増加に伴い、いわゆる新住民の方が急増しております。この事もあり、町や地域の多くの皆さんに江ヶ崎の氏神であります、江ヶ崎八幡神社の由緒について知っていただき、そして親しんでいただく為に由緒を記した看板設置を予定しております。

この事に伴い改めて当社に関する諸資料の精査及び寿徳寺のご住職をはじめ町の有識者の方々より助言をいただき、この程下記の通り由緒についての「統一見解」を取り纏めました。

### 江ヶ崎八幡神社御由緒

当社は江戸時代から江ヶ崎村の鎮守とされ、祭神は応神天皇です。

「神社明細帳」によれば、天文元年(1532)に荒川伊豆守景親が武運長久祈願のため創建したと記しておりますが、実際には天正19年(1591)に徳川家康の命により荒川長兵衛が江ヶ崎村を検地し、石高百七拾四石九斗の領主となってから社殿が整ったと考えられます。また元禄12年(1699)には、「八幡宮」の神号額が作られており、この頃には当社が神額を掲げる社殿を有していたことが分かります。

江戸時代後期に編さんされた「新編武蔵風土記稿」にて、当時の江ヶ崎村は「水田多く陸田少なし」民家は28軒、稲毛領(のちに川崎領)に属しており、社殿は「東通り」(旧新鶴見操車場内)にあり、参道の左右に老松2株、境内にも古杉や老松が多く神域頗る荘厳なり、「八幡社は、5寸許りの正観音座像を祀る村の鎮守で、伊勢・稲荷を合祀し、寿徳寺持ち」と伝えています。神道と仏教が習合して信仰された江戸時代までは、村内の寿徳寺(1615創建)が、別当(神社の所有者・管理者)として当社の祭祀を行いました。明治6年(1873)神仏分離の折に村社となり、明治42年(1909)に寛政年間より村内に祀られていた石宮第六天社を合祀しました。

昭和3年(1928)境内地が新鶴見操場敷設用地となった事に伴い、当社は11軒の民家とともに現在地に移転しました。本殿の垂木は巧みな技術を要する見事な扇形です。昭和34年(1959)唐破風の屋根を修理し、昭和56年(1981)には、瓦屋根を全面銅板葺きにしました。またこの時「天明6年建立、石工飯島吉六」と刻してあった石鳥居も、現在のものに建て替えられました。

### 境内の石造物

延宝 2年(1674)	八幡石(カ石)
天明 4年(1784)	庚申塔(六臂青面金剛像の浮彫)
天明 4年(1784)	手洗鉢(奉納 黒川喜平次)
天明 8年(1788)	左大臣右大臣像(奉納 荒川数馬)
天明 8年(1788)	狛犬一対(奉納 鴨志田右与衛門)
寛政 9年(1797)	石宮(切妻笠石宮第六天社)
寛政11年(1799)	庚申塔(六臂青面金剛合掌像の浮彫)
天保 6年(1835)	八幡石(カ石)

左大臣右大臣像、狛犬、第六天社は江戸時代中期から11代続いた「鶴見村の名石工」といわれた飯島吉六の作品です。

(ご参考)

\*「神社明細帳」

内務省及び庁府県に備えられていた神社の台帳です。

明治5年より調査が始まり、明治12年と大正2年に一定の様式のもとに整えられました。

\*「新編武蔵風土記稿」

徳川家第11代将軍家斉(いえなり)治世下の文化文政時代(1804~1830 化政文化期)に編さんされた武蔵国の地誌です。

横浜市矢向地域ケアプラザ TEL045-573-0020

## 「地域包括支援センター」をご存知ですか?

### 矢向地域ケアプラザ 地域包括支援センター

私たちが担当させていただきます! 自宅へも訪問致します!



社会福祉士  
岩川



主任ケアマネジャー  
加藤



保健師  
今吉

住み慣れた地域で  
暮らしていく為に、  
介護予防や生活支援の  
体制づくりを行います。



生活支援コーディネーター  
遠藤



### 地域包括支援センターとは・・・

「地域の身近な相談窓口」として、主任ケアマネジャー・社会福祉士・保健師等の

3つの職種がそれぞれの専門性を活かし、チームとして連携して、以下の業務に取り組みます。

#### ○総合相談支援

地域の方々からの様々な相談をお受けし、適切なサービスにつなげます。

#### ○介護予防ケアマネジメント

介護や支援が必要になるおそれのある方へ介護予防サービスを提供します。

#### ○権利擁護

地域で安心して暮らすため、高齢者の権利や安全を守るお手伝いをします。

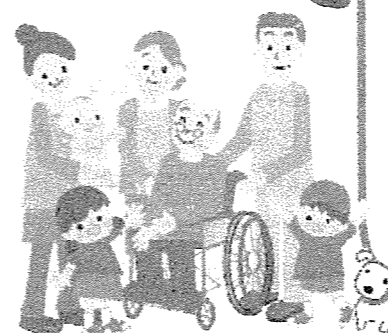
#### ○包括的、継続的ケアマネジメント

### このようなご相談に応じています!

たとえば・・・

- 介護保険制度や福祉サービスについて教えてほしい
- 退院後の介護や住まいについて相談したい
- 健康について心配毎、介護予防に関する相談
- 物忘れが多くなった家族のことが心配
- お金の管理や悪質商法などについて知りたい
- 近所に心配な方、気になる方がいる・・・など

お気軽にご相談  
ください。



## 江ヶ崎町内会の歴史

鴨志田 正晴

横浜市における町内会の起源は、市制が施行された翌年の明治23年(1890)に作られた「衛生組合」にあると云われています。

この衛生組合を組織した主な目的のひとつに、横浜が開港地として貿易や居留外人との関係で、伝染病の危険にさらされる機会が多いためと「自治会町内会実態調査報告書」のサイトに書かれています。

【草創期】 大正12年(1923)鶴見町にも衛生組合が設立され、それより少し遅れて、矢向江ヶ崎衛生組合が結成されたようです。

昭和2年(1927)鶴見町と横浜市とが合併し、区制が施行されてから間もなく、矢向町と江ヶ崎町とで「矢向江ヶ崎町内会」が設立されました。

この設立の背景には、関東大震災後に町内の住民組織が救援や相互扶助で大きな役割を果たしたことから、地域社会の基礎組織としての町内会の結成が叫ばれたことがあげられると考えられます。

これ以後、矢向・江ヶ崎町内には「衛生組合」と「町内会」との二つの組織が存在していました。

この二つの組織について「鶴見区勢概覧(昭和11年版/鶴見区役所刊)」に、次の記載があります。

- ① 衛生組合 昭和十一年六月現在区内に鶴見区衛生組合連合会一、各町衛生組合四十九ありて 区、市、警察署と提携し区民の衛生思想の普及啓発に関する事業を行ひ 本区衛生行政運用に貢献しつつあり。
- ② 町内会 区内各町に町内会の設置ありて 区政の補助及び町内一般の親睦協調をはかり 以て区政運営上に貢献しつつあり  
昭和十一年六月現在 四十九の町内会あり。

【戦時期】 戦時色が強くなってきた昭和15年(1940)3月 内務省の「部落会町内会等整備要綱」によって、町内会の全国的な組織化が図られ、市には

「町内会」町村には「部落会」が、法的に整備されることになりました。

それまで各地で異なった組織や活動をしてきた町内会は、戦争に国民を総動員するための組織の性格を強めていき、全国一律の規定によって画一的なかたちに編成されたのです。

さらに昭和17年(1942)には、閣議決定により大政翼賛会の下部組織としても位置づけられ、国家総動員体制の公的な末端戦争協力組織となりました。

横浜市も全市一斉に町内会整備を行い、いままでの「矢向江ヶ崎町内会」は解散、新たな町内会を編成する準備に取りかかりました。

江ヶ崎町はそのまま「江ヶ崎町内会」とし、昭和16年(1941)4月 全世帯数約60の単一町内会としてスタートしました。

矢向町は「泉町内会」、「神田町内会」、「宮本町内会」、「本町町内会」、「南町内会」の5町内会に分かれて設立することになりました。

戦時下の町内会は、およそ10世帯内外の小規模で小回りのきく「隣組」やその隣組の全世帯を構成員とする「常会」や「回覧」で、国策の周知徹底を図る組織となりました。また、木炭、マッチ、米穀などの生活必需物資の配給業務や防空演習、消火訓練の実施や、町内の出世兵士の壮行など戦時行政の下請けも任されました。

【戦後期】 敗戦後の昭和22年(1947)町内会は、占領軍GHQにより戦争遂行組織とみなされ 解散・活動停止となり、町内会長も公職追放の対象となりました。

ところで、形式上は解体された「町内会」でしたが、戦後の混乱した状況下、地域の防犯や防火活動などの必要性から、多くの町内会は、防犯防火協力会、防犯協力会などと名称を変えて自治組織の存続を図っていました。

江ヶ崎町でも、昭和21年(1946)に「江ヶ崎町防犯協力会」を結成、北矢向交番(現在の矢向駅前交番)管轄である 泉町(現矢向五丁目)、神田町(現矢向六丁目)との3町で、交番名から「北矢向防犯協力会」を組織しました。昭和23年(1948)4月 防犯協力会が北矢向交番から鶴見区役所に管轄が移った時に「江ヶ崎町自治会」と会名を変更しました。

この自治会は、平成5年(1917)4月から「江ヶ崎町内会」と改称して、現在に至っています。



# 江ヶ崎さん

すぎえ かずえ  
杉江 一枝 さん



## プロフィール

生まれ：昭和10年(1935)11月17日 満82歳 亥(イ)年  
群馬県邑楽郡小泉町(現 邑楽郡大泉町)  
5人兄弟(2男3女)の長女で1番目  
趣味：・手芸(和裁・洋裁・編み物)  
・旅行(京都には10回は出かけました)  
嗜好：(食べ物)昭和一粒の生まれですので、何でも  
いただきます。あえて言えば魚は苦手

昭和10年、現在の群馬県邑楽(おうら)郡大泉町に生まれ、二十歳まで過ごしました。生まれてすぐの2歳の時に日中戦争、6歳の時に太平洋戦争10歳の時が終戦と、いわゆる「少国民世代」です。

## 一零式戦闘機と勤労奉仕と空襲

尋常小学校から国民学校と改称された昭和16年4月、小泉町国民学校の1年生になりました  
入学したては、比較的平穏な学校生活でした。  
年上の男の子らと、町内にある中島飛行機小泉製作所(現パナソニック)に駆けつける。そして専用道路脇の草の上に腰かけて、完成したばかりの「零式戦

闘機」が、7~8人の作業員によって、ゆっくりと格納庫へ押されていくのを見るのが楽しみでした。

12月 太平洋戦争が始まると、子どもの生活も戦争中心のものに変わりました。学校では授業どころではなく、低学年でも 勤労奉仕で、麦踏み、田植え、草取り、稲刈りなど、近くの農家の手伝いをさせられました。

昭和19年からは、怖く恐ろしい空襲に遭いました。中島飛行機や点在する軍需工場が格好の目標にされたのです。特に昭和20年2月の空襲では、家に近い大きな防空壕付近も集中爆撃を受けました。損傷の激しい遺体が、戸板に乗せられ近くのお寺に運ばれていくのを、目の当たりにし、悲惨な状況に2-3日は食事が喉を通りませんでした。

## 一昭和36年 結婚、昭和48年 江ヶ崎へ

昭和30年に埼玉県志木市の縫製工場に就職、住み込みで働きました。イージーオーダーといって、形を見本から選び、客の寸法に合わせて縫う仕事で、オンワード樺山の下請けでした。

川崎にある岡村建興(株)の役員であった伯母の紹介で、25歳で結婚しました。相手は川崎市役所をへて岡村建興に入った土木の技術屋さんでした。新居は武蔵新城のアパート、のちに川崎の東渡田に会社の寮が出来たので、そちらに移りました。

昭和48年、江ヶ崎の「ぼたん地区」に越してきました。

主人は「子のためにも、母親は家にいるのが一番」という考えでしたので、今日まで専業主婦ひとすじでやってきました。

そこで、家庭に迷惑のかからない、平日の昼間に出来ることをふたつやりました。

ひとつは小学校のPTAです。下の子の入学から6年間 なにかしかの役員を務めました。

もうひとつは、区、市、県の役所の統計調査員です。国勢調査はもちろん、事業所統計調査、工場調査など常任調査員となって働きました。それぞれ年

に数回のことですので、外に出るいい機会と思ってつい最近まで続けていました。

主人は定年退職後に「今度はオレが留守番をするから」と云ってくれましたので、外に出る機会を作ることができました。

平成12年に、新鶴見ホームが開所時の裁縫ボランティア募集に参加。当初は地元の10人超がおいででしたが、現在は4人ほどになりました。

その後、江ヶ崎社協の「いちりんの会」に参加、ふれあい食事会のお手伝いや「ゆうゆうサロン/料理教室」のまとめ役をやらせてもらっています。

## 一つるし雛 きっかけは伊豆稲取旅行

10数年前の伊豆旅行でみた 稲取温泉の「雛の一つるし飾りまつり」がきっかけです。当初は作る気はなかったのですが、1年程して弘明寺の友達が「型紙を作ったから」と云ってくれました。

もともと洋裁の経験もあり手縫いは好きでしたので、コミハウスの呼びかけに応じて同好のみさんの協力をいただき、初めての展示をやりました。この催しは「コミハウスの一つるし雛展覧会」として、いまも続いています。

またこの時、一つるし雛の新鶴見講座が開講し、私はつくる側から教える側にまわることになり、田村さんと末吉や潮田へ出張講義にいきました。

このごろの一つるし飾りは、鯉のぼり、兜、ちまき、柏餅など男の子バージョンも加わって、皆でわいわいがやがや楽しんでいます。

## インタビューを終えて

「杉江さんは、奉仕の気持ちが強いからだと思えます。そもそも、見返りを求める気持ちがなく、他人に対しても細やかな気遣いの出来るお人柄です」と元町内会長さんは話されています。

この2月、永年にわたる地道なボランティア活動に対し、鶴見区社協より「ボランティア活動功労者」として、顕彰されました。